児童に見られるつまずき

　異種の２つの量の関係を正しくとらえることができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　単位量あたりの計算や、そこから導き出された数値が何を表しているのかを説明させることで、単位量あたりについての理解を深めさせる。

指導事例集ｐ．５７

１　学年・単元名　　第５学年　単位量あたりの大きさ（数量関係領域）

２　単元目標

・単位量あたりの考えの良さがわかり、これを用いて関連する２つの量の大小を比べようとする。

　【関心・意欲・態度】

・異種の２つの量の割合で表される量について、単位量あたりで考えることができる。

【数学的な考え方】

・単位量あたりの考えを使って、異種の２つの量の大小を比べることができる。　　 　 【技能】

・単位量あたりの考えを使った比べ方や表し方を理解している。　　　　　　　　 【知識・理解】

参考：単元について

３　単元の内容

・混み具合と単位量あたりの学習の動機づけ

**・公倍数の考えと単位量あたりの考えの比較**

・単位量あたりの考え

・２つの観点で見たいろいろな単位量あたり

・１つの観点で見た単位量あたり《人口密度》

４　本時の目標

　　混みぐあいを比べることで、本単元の学習課題を捉え、単位量あたりに着目する考えを理解する。

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 　 | 児童の活動 | 指導上の留意点**太字：つまずきに対する手立て** |
| 導入展開まとめ | １　部屋の混み具合を調べるという課題をつかむ。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | A室 | B室 | C室 |
| たたみの枚数 | 10まい | 10まい | ８まい |
| 人数 | ６人 | ５人 | ５人 |

・同じ畳の枚数なら人数が多いほうが混んでいる・同じ人数なら畳の数が少ないほうが混んでいる・差では比べられない。A室とC室では，どちらの部屋が混んでいるか調べよう。２　前時で取り上げた公倍数の考え方を振り返る。・畳の枚数をそろえれば、人数が多いほうが混んでいる。・人数をそろえれば、畳の枚数が少ないほうが混んでいる。３　単位量あたりの考えを取り上げ、全体で検討する。参考：授業の様子＜たたみ１まいあたりの人数＞・A:６÷１０＝０.６　　C:５÷　８＝０.６２５＜子ども１人あたりのたたみのまい数＞・A:１０÷６＝１.６６６…　　C:　８÷５＝１.６４　結果について交流し、まとめを行う。参考：授業の様子５　学習を振り返る。（1）練習問題をする。参考：ノート、授業の様子

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | C室 | Ｄ室 |
| たたみの枚数 | ８まい | 11まい |
| 人数 | ５人 | ７人 |

（2）振り返りをノートに書く。 | ・部屋割りの情景図とあわせて表を見ることで問題場面を正確に想起させる。・前時までの学習で、C室が混んでいることは分かったが、触れられていない考えを本時で検討する旨を伝える。・計算せずに比べられるものはどれかを問うことで、前時の学習の流れを思い起こさせる。・児童から差の考えについての発言がない時は極端な例で話し合ったことを思い起させ、差の考えでは、比べられないことをおさえる。・単位量の考えと比較させるために、公倍数で考えた児童の考えを取り上げ数直線図などに表して板書しておく。・理解が難しい児童には、比例的な考えに気づけるよう数直線図に書き込みをさせる。**・単位量あたりの考えで計算された数値が何を表しているのかを話し合うことで単位量あたりの考えについての理解を深めさせる。****・公倍数の考えで示された数直線図を活用して単位量あたりの計算が何を意味しているのか説明させる。**・単位量あたりの考えが出ない場合は公倍数の考えを表した数直線図をもとに単位量にそろえることに気づかせ、そのきっかけを作る。**・それぞれの考え方を認め、「そろえる」という共通点をもっていることを明らかにする。**・D室についても単位量あたりの考えを使って比べるように指示する。児童の理解に応じ、予備問題と取り換える。・解決に困っている児童には、2通りの解き方のうち、たたみを単位量とする考えで求められるよう支援する。・ペアで単位量あたりの考えを説明し合うことで、考えに対する理解を深める。◇単位量あたりに着目する考えを理解することができている。　　　　　　　【知識・理解】★中学校では理科などの他教科でも活用される考えであることを示唆する。・本時の学習で分かったことや考えたことを書かせる。 |